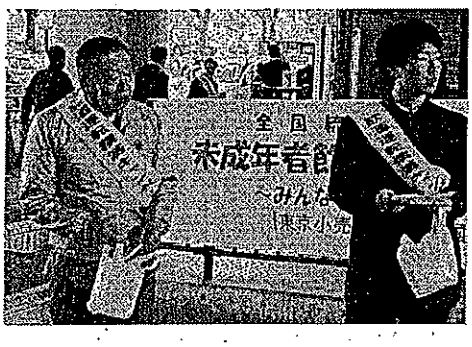
荒川懇話会

総勢60名が日暮里で啓発
都内で唯一 高校生が参加

荒川酒類業懇話会（栗林正次会長―尾久、三河島、南千住、日暮里支部で構成）は11月21日、日暮里駅で「未成年者飲酒防止及び飲酒運転根絶キャンペーン」を実施、総勢60名の参加者が2000個のポケットティッシュを配り、適正飲酒の推進をアピールした。

10年目を迎えた4支部合同の街頭啓発には、継続して地域貢献に取り組む酒販組合に賛同した都立竹台高校が一昨年から協力。さらに昨年には荒川警察署の警備課、生活安全課、交通課の支援も得られるなど、当初組合員と税務署員でスタートした活動は実績を重ねるにつれて拡大。今では規模、内容ともに都内随一のキャンペーンに発展している。

午後4時、JRと舎人ライナーの改札につながる東口に集まったのは、栗林会長（日暮里）や南千住の森田支部長、日暮里の前山支部長を中心に、仕事の合間をぬって駆けつけた組合員25名。また、荒川税務署・松丸署長、東京国税局・長野酒類業調整官、浅草税務署・所酒類指導官のほか、荒川警察署各課の警察官や交通安全母の会の会員らも多数参加。さらに、同キャンペーンでの活動が評価され、今年の納税表彰で税務署から感謝状受けた竹台高校からは、浅原、大河内両教諭が引率する生徒達15名が加わった。



冒頭、栗林会長が関係行政や高校生、組合員など全員を見渡しながら謝意を示した後、松丸署長が「未成年者飲酒と飲酒運転をさせない街づくりに向け、効果のある活動だと思う」とあいさつ。

地域一体で取り組む荒川懇話会

高校生と共に趣旨の協力を呼びかける栗林会長

この後、酒販組合のティッシュや警察が用意したグッズ（ハンドルキーパーのチラシ等）を入れた袋を手に、タスキを掛けた参加者は東西の出口周辺やバスロータリー、近隣の商店街と各所に分かれて一斉に配布を開始した。

生徒会長の渡邊さんら高校生の元気が目立つ中でも、栗林会長は先頭に立って「お酒は致酔飲料。間違った飲み方をすると大変なことになる。飲酒ルールを守ってください」と大声で連呼。また、気後れしていた生徒達に優しく声を掛けて背中を押していた前山支部長、記録用のカメラを抱えながら黙々と配る前田さん（前田酒店）や、裏通りに移動し「公衆トイレの前はみんな貰うね」と笑顔の山口さん（川口屋酒店）、何度もティッシュを補充し改札に向かう人達に手渡した大島さん（大島酒店）や丁寧に頭を下げて趣旨を伝えていた新井さん（枡屋）など、全ての組合員が熱心に取り組んだ結果、30分程でキャンペーンは終了した。

竹台高校の渡邊生徒会長

上から南千住の森田支部長、前田さんと大島さん

なお、当日は地元ケーブルテレビが取材。荒川懇話会が駅頭で啓発している模様は、12月3日～9日、「こんにちは荒川区」の番組内で放映される予定。